

【群書類従など叢書を紹介します…第5回】

「令義解」余聞
 本の出版の経緯を通じて
 うかがえる塙先生の姿勢

文・顕彰会事業委員
 長谷川典明

法律の注釈書である「令義解」の出版にあたり塙保己一は、寛政十年（一七九八）十月、国史・律令の世情流布の印本を校正して見たところ、誤字脱字が多いため群書類従出版の手すきの時に改めて開版したので公儀より七八百両を貸与して欲しいと願っています。そして「国史等之儀者、群書類従杯より者格別ニ売捌都合も宜有御座候、右を以上納仕度存候」と、群書類従などよりは



売れ行きもよいので売上金から返済するからとしていました。かくして寛政十二年（一八〇〇）十二月、医疾令などを補完した一〇巻本の「令義解」が開版されました。

【御救料と取次料】すると翌年、享和二年（一八〇一）五月に「令義解」（八巻本と思われる）を既に出版していた京都の書林吉田四郎右衛門から、「必至と売止、難儀至極ニ存候」と、救済をしてほしいとの申し出がありました。保己一は、和学講談所の蔵版が出ることで難儀をする者があるのは不本意だからということ、一部に付救済金三匁三厘、なおかつ取次店として認め、取次料として六匁六厘を支払うことで解決をみます。

詳細をみると、令義解一部が売って高三拾匁。そのうち材料費の紙、摺手間代、表紙綴仕立代など支払うと残金は拾五匁七分七厘。旧版元へはその中から三匁三厘は救料。六匁六厘は取次料合計で九匁九厘を支払うという内容です。三匁の救済要求に対して結果的には「九匁九厘差遣候者過分之様ニ

得共」ともあるようになんと手厚い条件でした。

しかし、これだけでおさまらず、他の出版物でも旧版元から令義解と同様な扱いをしてほしいと申し出も出ています。このように和学講談所の事業には京都や大阪の版元などとの交渉もあり、事業者としての経営感覚も必要だったようです。

【群書類従の評価】前に記したように「令義解」などの書物は群書類従には載っていません。群書類従はそうした流通ルートに乗らないようなものを多く掲載しているのです。佐々木信綱は「塙保己一と歌学」の中で「群書類従は原則として、三巻以上の書を探らず、三巻以下の書を選び載せたり。これ大部のものは比較的散佚の恐れなければなり。而してこはまことに至当なる用意として賞讃すべきものなり。」と述べています。

【群書類従販促進策】そうした内容であるから、当然のことながら群書類従の売れ行きは芳しくなかつたようです。享和二年九月になると保己一は、「群書類従」や六国史（日本書紀・

続日本紀・日本後紀・続日本後紀・文徳実録・三代実録）の販売促進のため、大名その他が購入予約をしてくれるように薦めてほしいと次のとおり幕府へ願っています。

「私開板之儀、諸家様御留守居之内懇意之者四五人申聞候者、万石以上之御方御三家様御付（御三家附家老）まで、御連入之儀申入見候方可然候、（中略）一通り御収蔵被成、御家来之内望之者へ者、御借被遣候ハ、日本之事弁へ候者も追々出来可申候」（「御内々申上候口上覚」）各大名の留守居役も言っているのだが、一万石以上の大名は一通り購入を予約して然るべきだ。そうすれば家来衆もそれを借りて読み、日本のことを弁える人たちが出てくるはずだ、というものです。翌年正月に「蔵版物町触之事」として町奉行所から触書が出されました。

こうした経緯をみると塙保己一は単なる学者と云うだけでは収まらない人物であることがわかります。また版元への手厚い条件と幕府に対する強気な要求からは、世のため後のためになる事業を手掛けているのだという自負心を窺い知ることができそうです。

第7回塙保己一賞表彰式・記念コンサートを開催

～『千と千尋の神隠し』の主題歌演奏もあります。ぜひご来場ください。～

埼玉県では郷土が生んだ偉人「塙保己一」のように、障害がありながらも不屈の努力を続け社会的に顕著な活躍をしている方や障害者を献身的に支援している方を表彰する塙保己一賞表彰式を下記のとおり開催します。【本庄市共催】入場無料です。

日時 12月21日（土）午後1時～
 （午後0時30分受付開始）

会場 セルディホール



副賞のブロンズ像(本庄市提供)

受賞者の方々（主な受賞理由）

<p>大賞：高橋 實さん(81歳)（大阪府大阪市） 視覚障害（全盲）を持ちながら点字による大学受験の導入や就業相談支援などに取り組む。昭和62年には、視覚障害者支援総合センターを設立。現在、理事長兼所長。</p>	<p>奨励賞：金子 遼さん(23歳)（熊谷市） 今年開催のアイナス (INAS) 世界選手権では5,000mで銀メダルを、1万mで金メダルを獲得。平成24年第66回福岡国際マラソンで知的障害者の世界記録を達成。</p>
<p>貢献賞：高木 金次さん(81歳)（東京都町田市） 日本チャリティ協会を設立し、会長として年末チャリティショウを20年間、チャリティバザールを23回開催するなど、障害者の社会参加と自立に大きく貢献している。</p>	<p>貢献賞：NPO法人国際障害者ピアノフェスティバル委員会（東京都世田谷区） 2005年世界14か国94名の障害のあるピアニストが参加した世界初ピアノパラリンピックを開催。今年11月に第3目を開催予定など交流の場、発表の場を提供。</p>

記念コンサート公演者の案内



朝霧 裕（あさぎり ゆう）
 筋肉の難病ながら車イスで活躍するシンガーソングライター。障害の有無、世代を問わず誰もが輝ける社会を夢とし、活動。さいたま市在住。



木村 弓（きむら ゆみ）
 歌手・作曲家
 「千と千尋の神隠し」の主題歌『いつも何度でも』を作曲・歌唱。「ハウルの動く城」の主題歌にも起用される。

塙先生の偉業を伝える出前講座を行います。ぜひご応募ください。

顕彰会では、“世のため後のため”を座右の銘として、世の中の人々や後世の人々のために貴重な記録を広く知らせ、遺そうとして、不屈の努力により郡書類従の編纂や和学講談所の設立を行った郷土の誇り塙保己一先生の遺徳を広めようと出前講座を行っています。

説明は、顕彰会事業部会委員が持参するプロジェクター映像を使い分かりやすく、塙先生の生い立ちから業績までを50分程度で行っています。現在までに市内のほとんどの単位自治会ごとに行ったほか、NPO団体など各種団体の集まりにも出向いて説明しています。

ぜひお気軽に顕彰会事務局(最終ページ下段参照)へお申込みください。お待ちしております。

今年も顕彰会へのご寄附ありがとうございます。

昨年に続き今年もふるさと本庄歌謡祭実行委員会様より歌謡祭開催時の収益金・寄付金が顕彰会へ寄附されました。10月18日にお預かりしました今回の寄附102,751円は、塙先生の銅像建立に役立たせていただくことになりました。ありがとうございました。



第七回
はなわ ほきいち
塙保己一賞

12月21日(土)の塙保己一賞へお待ちしております。
(左写真：上から 昨年の表彰式の様子、公演者 木村 弓さん=歌手・
「千と千尋の神隠し」主題歌作曲・歌唱、公演者 朝霧 裕さん=歌手)

本庄市塙保己一記念館にある資料紹介

文政十二年(一八二九)伊勢神宮に奉納した「群書類従」に対する「感謝状」

文：顕彰会事業委員 荒井一夫

国学者の聖地ともいえる神宮への「群書類従」献納は、国学者・足代弘訓の懇望もあり、保己一にとっても悲願でした。「群書類従」の刊行された享和二年(一八〇二)には奉納計画がなされており、文化元年(一八〇四)には二六〇巻が奉納されましたが、完本での奉納は資金面の問題から成し得ず、保己一の生前には、ついにその願望は果たすことができませんでした。その後、文政十二年(一八二九)になって、子の次郎忠宝らの手によって残り二七〇巻を追納し、全六六六冊(目録を含む)を完納することができました。これは、「群書類従」献納に対しての感謝状です。

(上写真の文言)

群書類従
右故塙先生所編輯、昨分類隣
合至一千二百七十種、六百六十五冊、
皇朝自古蒐羅群籍未有若此之盛、
矧辨晰異同一從正本可謂精
且備也今茲戮力献納
大神宮文庫終、先府君之志實是
弘道崇學覃及斯舉、
神豈不欲純淑是保書生與受厥錫
不勝欣載之至遵例標録以
照千祀謹狀

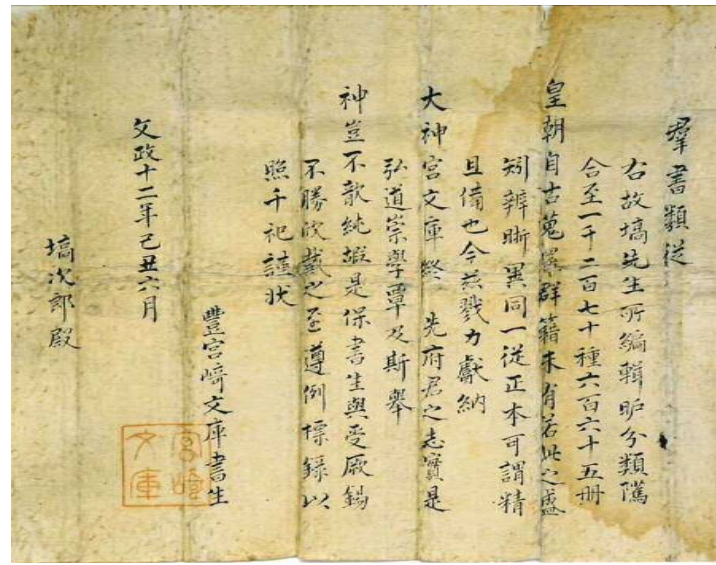
豊宮崎文庫書生
文政十二年己丑六月
塙次郎殿

(右記文言の大意)

群書類従
故人塙先生の所で群書類従を編集・
分類し合わせて一二七〇種六六五
冊に至る。

我が国では、このときをのがすと
古書籍を集められない。言うまで
もなく、一つ一つを精査し正本と
して、今ここに合わせ献納される。
これからは広く・深く道を求めて
いく書生にとって支えとなるう。
謹んで永くあがめたい。

豊宮崎文庫書生
文政十二年己丑六月
塙次郎殿



“郷土の偉人 塙保己一先生を知ろう” —— わくわく体験まつりが開催されました。



協力した本庄第一高校美術部生徒による塙先生の特大的肖像画

10月20日、こだま青年会議所主催によるわくわく体験まつりが行われました。

子どもたち若い世代を中心に郷土の偉人塙保己一先生を知って親しんでもらおうとするこのイベントでは、顕彰会も群書類従の版木刷り体験コーナーで協力、また、温故学会による紙芝居も行われました。

会場の若泉公園グラウンドには雨天にもかかわらず親子連れなど130人が来場し、様々な催しを楽しみました。

→本庄第一高校美術部生徒による
発泡スチロール製の塙先生像



版木刷り体験コーナー

発行 総検校塙保己一先生遺徳顕彰会
事務局 本庄市教育委員会 生涯学習課 本庄市児玉文化会館(セルディ)内
所在地 367-0216 埼玉県本庄市児玉町金屋728-2
電話 0495-72-8851 FAX 0495-72-8854

※点訳ボランティアグループ「ほきの六点会」の皆様により会報誌の点字翻訳版を作成していただきました。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

ごあいさつ

日々寒さが つのり、年末のあわただしさを感じるようになったこの時節、会員のみなさまにはお体に配慮しつつご活躍されていることと拝察いたします。みなさまの当顕彰会への多大なご支援・ご協力、厚くお礼申し上げます。

さて、当顕彰会における塙先生顕彰のシンボルともいふべき銅像建立についてですが、さる11月22日に銅像建立準備委員会の雉岡委員長と内田副委員長から私あてに報告書をご提出いただきました。委員会では、役員会での基本決定事項をもとに、23年7月6日から5回にわたり視察を含め慎重審議を行っていただきました。今回、新幹線本庄早稲田駅北口での銅像の配置場所をはじめ姿かたちなど詳細事項も含めてご報告をいただいたことで、この貴重なご意見を参考としつつ平成28年初頭の銅像建立にむけて、新たに設置される建立委員会や役員会の場で議論をすすめてまいりたいと存じております。

また、来たる12月21日には上記のとおり塙保己一賞が開催されます。多くの方々のご参加をお待ちしております。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会 会長 吉田 信解